

目次／表紙 テーマ展「石を愉しむ展覧会」／p. 2-3 いわて文化ノート「地域の歴史を未来へつなぐー東日本大震災で水損した学校日誌から」／p. 4-5 展覧会案内 テーマ展「石を愉しむ展覧会」／p. 6 事業報告 企画展「星にねがいを一宇宙といわての年代記ー」関連事業「星空観察会」／事業報告「ナイトミュージアム」／p. 7 活動レポート「館園実習」／事業報告「民俗講座I「たいけん!むかしのくらし」」／p. 8 インフォメーション

テーマ展

たの

「石を愉しむ展覧会」

令和8年1月10日(土)～3月8日(日)

場所: 2階 オザワ工業ぎゃらりー(特別展示室)



石（岩石・鉱物）が持つ様々な魅力を愉しむ展覧会です。色鮮やかな石や、岩絵の具で描かれた日本画などを展示します。

■いわて文化ノート

地域の歴史を未来へつなぐ—東日本大震災で水損した学校日誌から

文化財科学部門 主任専門学芸員 丸山浩治

■はじめに

これまで当館では東日本大震災の津波で被災した様々な紙資料の再生作業を行ってきましたが、数多く手がけたものの一つに学校日誌があります。学校日誌は昭和22年制定の学校教育法施行規則により5年間の保存が義務付けられましたが、逆を言えば5年を過ぎれば廃棄が可能です。しかし陸前高田市では明治期のものを含む多数の学校関係文書が残され、震災前、それらは市立博物館で収蔵・管理されていました。ところがあの津波は鉄筋コンクリート2階建てだった博物館の屋上まで押し寄せ、資料はもれなく水損被害を受けることとなります。

被災した資料はそのままにしておくとは急激に劣化が進んで朽ちてしまうため、それを防ぎ安定的に保管できるようにするための処置、すなわち安定化処理を施す必要があります。しかし当初はそのやり方が確立されておらず、どうしたら資料を安全な状態で後世に伝えられるか、試行錯誤を繰り返しながら、方法の検討が進められてきました。

■津波で被災した紙製資料の修復

津波を被った紙の安定化処理とは、土砂やヘドロ、塩類、雑菌などの劣化誘因物質を除去する作業です。その最も単純かつ効果的な方法は水で洗い流すことで、特に塩類は水と親和性が高く、脱塩を行うには水への浸漬が極めて有効です。

紙資料に対して脱塩が必要な理由、それは塩類が持つ高い潮解性にあります。潮解は、固体が空気中の水蒸気を吸って溶解する現象です。つまり紙に塩類がたくさん付着していると、塩が周囲の湿気を取り込んで紙自体が湿り、カビなどの雑菌が繁殖する原因となります。さらにはカビをエサとする虫も増え、劣化が急

速に進行してしまいます。

ただし、紙資料を水に浸漬する行為には大きなリスクが伴います。筆記・描画材が溶け落ちてしまう可能性があるのです。さらに、資料を殺菌するには水だけでは不十分で、平成23年の当該作業開始当初は次亜塩素酸ナトリウム水溶液を、同28年からは海底のヘドロに含まれていた魚介類由来のタンパク質や脂質を除去する必要性が認識されて医療用の中性洗剤を使用するようになりました。こうした処置が筆記・描画材の消失を招かないか、事前の色落ちチェックが不可欠です。処理可能と判断した資料についても個々の状態によって浸漬時間や方法を工夫するなど、資料保護を大前提に今できうる限りの処理を行ってきました。学校日誌もこうした作業を経て、陸前高田市立博物館へ順次返却を進めています。

■改めて気づく資料の重要性

ところで、こうした処理の過程で改めて気付かされることがあります。それは、資料それぞれが有する史料としての重要性です。一枚々々を確認する作業の中でその記載情報にも目が届くこととなり、場合によっては新たな発見につながることもあります。今回取り上げている学校日誌にしても、それ自体はあくまで学校の運営や教育の記録として、日々の行事や活動、先生と生徒の様子などが淡々と記された事務的なものですが、当時の世相、その地域の様子、突発的な出来事、場合によっては記載者の心情まで、さまざまな情報を読み取ることができます。これが各学校で毎年度記されるのですから、地域の来し方を振り返るための重要な物証といえます。例えば、戦時下の混乱の中でも日々の出来事が絶えず記録され、教育史の観点だけでなく社会史を編

む上でも一級史料となるものです。

当館で安定化処理と修理を行った学校日誌には、昭和20年度のものも4冊存在します。その一つ、米崎国民学校の日誌から、太平洋戦争末期～終戦直後の学校や陸前高田の様子を知り、改めて平和について考えるべく、7月から9月の記載内容を追ってみました。

■昭和20年度学校日誌（米崎国民学校）

米崎国民学校は、現在の陸前高田市米崎町にありました。前身は米崎尋常高等小学校で、国民学校令によって昭和16年4月1日に改称されます。課程は初等科6年と高等科2年の計8年で、それぞれ現在の小学1～6年、中学1～2年に相当するものでした。以下、日誌から当時の様子をみていきましょう。



写真1 日誌表紙 修復前(左)・後(右)

警戒警報・空襲警報 7月以降、岩手県沿岸部でも警戒・空襲警報が頻繁に出されるようになります。日誌には7月1・2・5・7・13・27・29・31日、8月2・7・8・9・10・13・14・15日の各日に警報発令の記載があり、8月10日「午前五時半頃ヨリ空襲警報発令 十数機編隊ニテ数度来襲 空襲ノ為児童臨時休業」
8月11日「機動部隊近接中ニ付休業」など、登校前に空襲警報が発令された場合は休業措置が取られています。学校への被害は終戦までありませんでしたが、7月14日「釜石艦砲射撃ヲ受ク(正后頃

ヨリ) 午後 グラマンF六F二機校舎上
二飛来、後 気仙沼ヲ銃撃セリ」

とあり、この時は米軍の艦上戦闘機が校舎上空まで及んでいたことがわかります。

出征見送り 出征の際は、駅へ兵士を見送りに行きました。

7月16日「三番上り列車ニテ應召・入管兵見送り」「警報発令ニツキ兵隊見送り後帰宅ス(生徒)」

など、計9回の記載が確認できます。結果的に、8月7日が最後の見送りとなったようです。

作業・授業 8月前半まで、行事欄には基本的に「勤労作業」の文字が続きます。特に高等科はその頻度が高く、一方で初等科の1・2年生は家庭作業として登校しない日も多く見受けられます。

勤労作業の具体的な内容は、

7月2日「勝木田秋葉神社付近開墾豆時キ」

7月20日「学校農場小麦刈作業」

8月4日「初三・四-第一校時よもぎ採り初五以上-開墾作業」

8月5日「初四-校庭開墾豆マキ作業 初五・六・高一・二-開墾作業」

など、農作業が大半です。当時、食料増産が政府の切迫した課題であり、校庭を含め開墾可能な土地の畑地化や、野草採取も行われていたことがわかります。

一方、8月15日までの1カ月半で「普通授業」があったのは6日間のみで、初等科の一部学年に限られたものでした。

重要なのは、8月16日以降「勤労作業」の、21日以降「普通授業」の記載が見えなくなることです。農作業等は9月以降も折々行われていますが、あくまで「勤労」ではありません。そして授業の実施が特記内容ではなく“普通”になったことが、敢えて「普通授業」と表記しなくなった理由と考えられます。

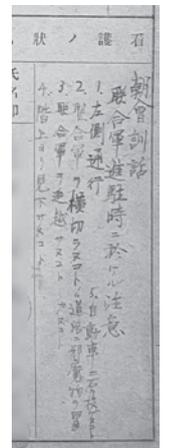
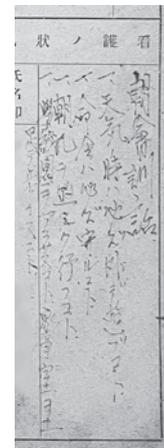
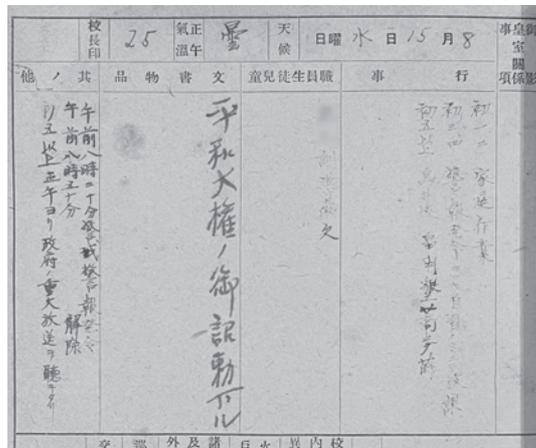


写真2 左：8月15日の頁上半 中央：9月11日の訓話 右：同27日の訓話

平和大権ノ御詔勅下ル 8月15日の「文書物品」欄には、ひときわ大きな文字で「平和大権ノ御詔勅下ル」と記されています(写真2左)。明らかに他と異なる様子の10文字からは、記載者の極めて強い思いを読み取ることができます。

朝会訓話 訓話からは戦後の変化が如実に伺えます。いくつか抜粋しながら時系列でみていきます。

7月2日「警報下の避難ノ仕方」

7月4日「敵機ニソナヘテノ準備、落付イテアハテナイコト」

7月23日「一. 村葬ニツイテ 一. 敵機動部隊行動ニツイテ 一. 空襲時釜石ニ於ケル国民学校児童ノ行為ニツイテ」

7月24日及び26日「空襲時ニ於ケル注意」

7月27日「出征兵見送りニツイテ」

8月27日「聯合軍進駐ニツイテ」

8月30日「戦後ノ生活ニツイテ」

9月3日「合同慰霊祭ニツイテ」

9月8日「室内ノ遊ビニツイテ」

9月11日「一. 天気ノ時ハ必ず外デ遊ブコト 一. 命令ハ必ず守ルコト 一. 朝礼ヲ正シク行フコト 一. 学級園ヲアラサヌコト、家事室ヲ土足デ歩カヌコト」(写真2中央)

9月22日「一. 秋季皇霊祭ニツイテ 一. 進駐軍二対スル私タチノ心ガマヘ」

9月27日「聯合軍進駐時ニ於ケル注意」

1. 左側通行 2. 聯合軍ヲ横切ラヌコト 3. 聯合軍ヲ追越サヌコト 4. 階上ヨリ見下サヌコト 5. 自動車ニ石ヲ投ゲヌコト 6. 道路ニ邪魔物ヲ置カヌコト」(写真2右)

11日の「天気ノ時ハ必ず外デ遊ブコト」のように、9月初旬から“遊び”の訓話が度々現れるようになります。平和を感じさせる象徴的な言葉です。一方で連合軍進駐に関する記載からは、複雑な心境や緊張感が伝わってきます。

■おわりに

わずか3か月分ですが、当時の状況について様々なことが読み取れる、やはり学校日誌は地域の歴史を未来へつなぐ大切な史料といえます。文字を読むだけではなく撮像データを残すことで足りませんが、物体としての資料はかけがえのないものです。非科学的ですが、本物だからこそ人々の心に訴えかけるものがあり、結局、これが財産なのだと感じます。

可能な限り実物を残し、後世に引き継いでいくこと。資料に触れるたび、その重要性を痛感するのです。

■展覧会案内

テーマ展「石を愉しむ展覧会」

会期：令和8年1月10日（土）～令和8年3月8日（日）

■はじめに

川原で拾う小石から宝石のように輝く鉱物、古代の石器や建築材、さらには現代社会を支える資源や素材に至るまで、石（岩石・鉱物）は身近な存在であり、人々の暮らしや文化と共にありました。

本展では、そのような石を「鑑賞の対象」としてはもちろん、知って、触れて、味わう「愉しむ対象」として紹介します。石が持つ自然の造形、また文化や産業資源としての側面にも光を当てながら、石の多面的な魅力を伝えます。



展示する石の一例

■「楽しむ」と「愉しむ」

キーワードは、「愉しむ」です。日常的に使う「楽しむ」とは少しニュアンスが異なります。「愉しむ」は、自分の心の在り方によって生まれる充足感や満足感を表します。宝石の輝きに魅了される人もいれば、鉱物の不思議な形や色を眺めて癒される人、専門的な事実に向き合う人もいます。本展を通じて、石との関わり方の中にそれぞれの愉しみを見つけ、好奇心や発見を心で静かにゆっくりと味わっていただければ幸いです。



誕生石

■石英のなかま

幼いころ、砂場で宝石のように輝く石のかげらを集めた記憶はありませんか？ そのかけらの多くが石英です。このコーナーでは、数ある石の中でも、最も身近で馴染み深い石英のなかまを展示します。

透明な水晶、紫色のアメシスト（紫水晶）、半透明の玉髓など、色や見た目は微量の元素や内部構造の違いによって変わりますが、どれも二酸化ケイ素（SiO₂）という同じ成分からなる石英のなかまです。



玉髓（滝沢市鬼越）

写真は、岩手県滝沢市鬼越産の玉髓です。かつて宮沢賢治もこの地を訪れ、玉髓を拾ったことが知られています。その様子は短歌に詠まれています。飴色で半透明、賢治が「仏頂石」と呼んだ乳頭状の構造もわずかながら見られます。江戸時代には、この玉髓が燧石（火打石）として採掘されました。その山の名は燧掘山。何が掘られていたのか、名を見ただけで想像できる、ちょっとした面白さがあります。

■石と色

石の色は、自然がつくり出したさまざま要因によって決まります。代表的なのは、鉄・クロム・チタンなどの元素が光を吸収することで生まれる発色です。例えば、ルビーの赤はクロム、青いサファイアは鉄やチタンの影響です。結晶構造の違いや不純物の量や状態によって色が変わることもあります。



色鮮やかな石

（青：青金石 緑：孔雀石 黄：硫黄 赤：辰砂）

石の色といえば、日本の美術に欠かせない岩絵具を思い浮かべます。岩絵具は、鉱物や岩石を砕いてつくられる絵の具で、日本画特有の深みのある発色を生み出します。近年では、天然の石に限らず、人工的に安定した顔料を用いた「新岩絵具」も開発され、表現の幅をさらに広げています。



岩手山—厳冬—【画：花立ゆかり氏】



日本画画材（新岩絵具、にかわ 他）
【資料提供：花立ゆかり氏】

本展では、盛岡在住の日本画家 花立ゆかり氏の作品を3点展示します。花立氏が制作に用いる画材とともに、岩絵具

が彩る温かみに溢れた作品をぜひご覧ください。

■金属を含む石

石には、有用な金属を含み、経済的に採掘・利用できるものがあります。これを鉱石と呼びます。たとえば磁鉄鉱からは鉄、孔雀石からは銅が得られます。こうした金属のうち、鉄や銅、アルミニウムなど、産出量が多く社会基盤を支えるものは「ベースメタル」と呼ばれます。一方、タングステンやリチウムなど、産出が限られますが先端技術やエネルギー産業に欠かせないものは「レアメタル」と呼ばれます。

本コーナーでは、「ベースメタル」や「レアメタル」、また金や銀など「古」から利用されてきた金属を含む石をご紹介します。金属を利用した製品や歴史・民俗資料と併せてご覧ください。



ボタンビット
(三菱マテリアル株式会社製)



タングステン鉱石 (左：灰重石) と
コバルト鉱石 (右上：コバルト華、
右下：輝コバルト鉱)

写真のボタンビットとは、岩盤を掘削する穿孔機の先端部分に使用されます。素材にはタングステンとコバルトが使われ、超合金として非常に高い硬度と優れた耐摩耗性を持つ合金です。タングステン鉱石としては灰重石が、コバルト鉱石としては輝コバルト鉱などが知られています。ボタンビットと併せて展示します。金属資源と人間社会との深い関わりを、鉱石と資料の両面からご覧ください。

■県の石

2018年、日本地質学会が全国47都道府県それぞれに「県の石」を制定しました。その土地で多く産出したり、特徴的に発見された岩石・鉱物・化石を一つずつ定めたものです。日本は世界でも珍しいほど複雑で多様な地質を持つ国です。そこで「県の石」を通して自分の地域の大地に興味をもち、その成り立ちや自然との関わりを考えるきっかけになることが期待されています。

本展では、東北6県の石（化石を除く）を一堂に展示します。ピンク色が鮮やかな青森県の菱マンガン鉱、石油根源岩としても知られる秋田の硬質泥岩、硯の原料として用いられる宮城県の粘板岩、花崗岩中で大きく成長した鉱物類が特徴の福島県のスカルン鉱物、形状が特徴的な山形県のそろばん玉石、そして岩手県からは蛇紋岩と鉄鉱石など、東北各県を代表する石達を見比べながらお楽しみください。



県の石 (岩手) 蛇紋岩 (遠野市産)

■おわりに

ここで紹介したものの以外にも、たくさんの方のコーナーをご用意しています。受験シーズン真っ只中なこの季節、「教科書に載っている石」を集めています。受験生のみなさん、石に触れながら知識の定着を図ってみませんか？紫外線ライトで「光る石」を観察したり、磁石を使って砂鉄など「磁性をもつ石」を確かめたり、体験的なコーナーもあります。

「愉しむ」という視点を軸に、お子様には新しい発見や学びのきっかけを、大人は石のもつ文化や実用的な価値を再認識する機会になればと思います。ご来館をお待ちしております。

(地質部門 佐藤修一郎)

関連事業 (詳しくはインフォメーション欄をご覧ください)

■【事前予約制】ワークショップ

「岩絵具で描く絵馬づくり」

1/24 (土) 10:00~12:00

対象：小学生以上 10名

材料費：300円

■【随時受付】ワークショップ

「日本画の絵具でお絵描き体験」

1/24 (土) 13:30~15:00

対象：幼児以上

■展示解説会

1/17 (土)、2/21 (土)

両日とも13:30~14:15

■サテライト展

1/21 (水)~2/15 (日)

(月火曜定休10:00~19:00)

場所：書肆みず盛り

(盛岡市南大通一丁目12-18

松栄館2階)

■事業報告

企画展「星にねがいを一宇宙といわたの年代記ー」 関連事業 星空観察会

開催日：令和7年8月2日（土）

今年度の歴史部門企画展は、「人と宇宙の関わりという視点からいわての歴史を振り返る」というコンセプトの下で開催されました。天体や宇宙が主たる対象である以上、会期中に一度は博物館で星をながめる機会を設けたい。そのような思いから企画された関連事業が「星空観察会」です。

通常天文学について専門的に取り扱う機会の少ない当館にとっては異色のイベントとなりましたが、40名の定員が募集開始からほどなくして埋まったところからも、同様のイベントへのニーズや関心の高さが感じられました。

当日は奥州宇宙遊学館を拠点に普及事業を展開している団体「ホシミネスカ」様より星空ガイドお二人をお招きし、館内で夏の星空に関する予備知識をクイズ

も交えつつ楽しく学んだ後、屋外の芝生広場へと場所を移し、望遠鏡による星空観察を行うという構成で行われました。

日中は時折降雨を伴う曇天が続いていたため、直接の観察は難しい（屋内で映像を用いて行う星空解説で代替する）ことも覚悟していましたが、幸いにして屋外に繰り出す頃には雲もどこかへ去り、「満天の」と形容しても差し支えないような星空が現れました。

講師が用意した望遠鏡で月や星々をじっくりと見つめる方、家族とともに芝生広場に寝転んで、語らいながら星をながめる方など、参加者の皆様は思い思いに宇宙と向き合いながら、2時間ほどのプログラムを楽しんでいました。

講師のお二人も、住宅地のなかにある当館でこれほどしっかり星空が見えると

は思わなかったとのこと。資料や施設のみならず、それらを取り巻くゆたかな環境や景観もまた当館の魅力の一つであることを再認識させられました。今後も当館のポテンシャルを100%引き出し、より皆様に親しみを持ってもらえるようなイベントを企画していきたいと思えます。

（歴史部門 目時和哉）



■事業報告

ナイトミュージアム

開催日：令和7年8月8日（金）、9日（土）

8月8日（金）、9日（土）の2日間、主に小学生、中学生を対象とした夏休み恒例の「ナイトミュージアム」を開催しました。

夕方、16時30分の閉館後に、展示室の扉を閉め、照明を消した暗闇の中で懐中電灯を照らしながら展示をいつもとは異なる雰囲気鑑賞していただくイベントで、毎年好評を頂いています。

今年も申込者が多く、抽選により2日間で13家族計36名に御参加いただきました。今回は盛岡からの参加が中心ですが、花巻や遠くは沿岸の大船渡、宮古からもご参加いただきました。

展示室では各分野の学芸員が、分野によっては仮装をしつつ、とっておきの展示について解説しました。

2階の総合展示では、考古部門が黒曜石を用いた石器について、歴史部門がよろいかぶとや刀のつば、昔の盛岡駅について、民俗部門がクイズ形式で妖怪について紹介しました。

1階のいわて自然史展示室では、地質部門がブラックライトを用いた光る鉱石について、生物部門が鳴き声からの生き物の推測、同じカエルでも鳴き声の違いがあることについて紹介しました。

参加された皆さんからは面白かったとの回答を頂きました。

黒曜石の鋭さや身の回りのものも工夫することにより見えてくる特徴があること、妖怪が昔の道具になっているのが分かったこと、接着剤がブラックライトで光ること、など子供たちは新たな発見を

していたようです。

また大人も、学芸員の話はどの方も面白く興味深いものばかりだった、とても良い企画で楽しめた、お孫さんたちとも楽しめたという感想や大人版のナイトミュージアムをしてほしいというご意見も頂戴しました。

一方、「長年松園地区にいなから、博物館でこのような企画をしていることを初めて知った」という方もおり、これまでの広報の仕方を考えるきっかけともなりました。

来年も同じ時期に開催予定です。今回頂いたご意見も参考としながら、よりよいイベントとしたいと思えます。来年もたくさんの方の応募と参加をお待ちしています。

（普及課長 戸根貴之）

■活動レポート

令和7年度博物館館園実習

令和7年8月21日(木)～8月28日(木)

今年度も7日間にわたり(休館日除く)当館で学芸員資格取得のための博物館館園実習が行われました。県内外の大学から13名の実習生を迎え入れ、全日程を無事終了することができました。

当館では、県ゆかりの学生(県出身者か県内大学在学学生)を対象に毎年博物館実習を実施し、数多くの実習生を受け入れてきました。

当館は総合博物館で地質・考古・歴史・民俗・生物・文化財科学それぞれに専門の学芸員がいるため、これらの講座はもちろんのこと、解説員による講座、総務課の講座など多岐にわたる充実した実習内容となっています。

博物館の側にとっても、日常の業務を実習生と一緒に進められるこの時期は、ありがたいものです。特に、毎年9月上

旬に行われる^{くんじょう}燻蒸(「資料整理」)準備には大いに助けられています。

また、近年の博物館は、来館者を増やすため広報に力を入れており、その一環としてイベントのチラシを作成しています。チラシの送付に限っても多くの手順があり、普段はこれらを学芸員が行っていますが、今回の実習では、2万6千枚もの博物館まつりのチラシ送付作業の中心を実習生に担っていただきました。

実習生の大学卒業後の進路は博物館とは限りません

が、当館での実習は、他ではなかなかできない珍しい経験だと思います。実習期間で身につけたこと、考えたことを今後の人生に生かしていただくとともに、引き続き当館を応援してくださいと願っております。(普及課 金子昭彦)



■事業報告

民俗講座Ⅰ「たいけん!むかしのくらし」

開催日: 令和7年9月21日(日) ①10:00～ ②11:00～ ③13:00～



民俗部門では、毎年ワークショップや講演会、芸能鑑賞会などのイベントを実施しています。令和3年度からは屋外展示曲り屋(旧佐々木家住宅)を会場に、児童生徒と保護者を対象とする「たいけん!むかしのくらし」を開催中です。

体験を通して展示をみるだけではわからない生活の工夫を感じとってほしい、本館から離れた位置にある屋外展示の存在を知ってほしいという願いを込めて企画立案したワークショップです。

これまで8月下旬の館園実習の時期に実習生とともに行ってきましたが、今季は熱中症対策強化のため秋に日程を移し以下4つのメニューで実施、8組29名の方々にご参加いただきました。

・かやぶき民家の解説

- ・むかしの洗濯体験/サイカチの実や洗濯石鹼、洗濯板による洗濯体験
- ・むかしの明かり体験/むかしの照明器具を使った実験
- ・おばけをさがせ!/館蔵「百鬼夜行絵巻」と民具に関するクイズラリー

参加者の方々からは、サイカチの実が楽しかった、おばけ探しなど子どもが楽しめる内容で遊びながら学ぶことができよかった、夜間にやってほしいなどの感想が寄せられました。

なお、当該イベントや出前授業などで子どもたちに大人気の「サイカチの実」は、株式会社IBC岩手放送様より毎年ご提供いただいております。ここに記して、感謝の意を表します。

(民俗部門 川向富貴子)



岩手県立博物館

IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション

〈令和7年12月1日～令和8年3月31日〉

お知らせ

●年末年始の休館

12月29日(月)～1月3日(土)は休館します。

展覧会

●テーマ展「石を愉しむ展覧会」

令和8年1月10日(土)～3月8日(日)

会場：2階・オザワ工業ギャラリー(特別展示室)

川原で拾う小石から宝石のように輝く鉱物、古代の石器や建築材、さらには現代社会を支える資源や素材に至るまで、石(岩石・鉱物)は常に人々の暮らしと文化に寄り添ってきました。本展では、その石を「鑑賞の対象」としてはもちろん、「愉しむ対象」として紹介します。自然の造形美や文化的な価値に加え、建築や工芸、産業資源など、石が持つさまざまな魅力をお愉しみてください。

◆展示解説会 会場：特別展示室、当日受付、要入館料

①1月17日(土) ②2月21日(土) いずれも13:30～14:15

◆県博日曜講座 会場：講堂、当日受付、聴講無料

2月8日 講師：佐藤修一郎(当館学芸員) 詳細は下記日曜講座の欄へ

◆ワークショップ

講師：花立ゆかり氏(岩手県日本画協会 会長)

・「岩絵具で描く絵馬づくり」

1月24日(土) 10:00～12:00

予約制/専用メールアドレスに申し込み(先着順)

会場：地階実技室 料金：300円 対象：小学生以上

・「日本画の絵具でお絵描き体験」

1月24日(土) 13:30～15:00

当日受付(時間内随時)

会場：2階サービスコーナー 要入館料 対象：幼児以上

◆サテライト展示

会場：書肆みず盛り(岩手県盛岡市南大通一丁目12-18 松栄館2階)

1月21日(水)～2月15日(日) 10:00～19:00 ※月火曜定休

●テーマ展「いわての酒造り～酒からSAKEへの今昔物語～」

令和7年9月27日(土)～12月7日(日)

●テーマ展「岩手の絶滅危惧種とネイチャーポジティブ」

令和8年3月28日(土)～5月24日(日)

失われつつある岩手の生物多様性と、自然を回復させる「ネイチャーポジティブ」に向けた活動を紹介しします。

県博日曜講座

第2・第4日曜日 13:30～15:00 当日受付 聴講無料

当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。

*展覧会関連講座

12月14日 「考古学者がやっていること～「編年」て何？」

金子昭彦(当館学芸員)

12月28日 「気仙隕石落下一件を読む」

大銚地駿佑(当館学芸員)

1月11日 「和紙資料の修復について」

古館祥子(当館学芸員)

1月25日 「鐺の世界 ～元持コレクションから～」

久保賢治(当館学芸員)

*2月 8日 「収蔵地質標本の産地を巡ってⅡ～テーマ展にも触れながら～」

佐藤修一郎(当館学芸員)

2月22日 「岩手の草原について」

鈴木まほろ(当館学芸員)

3月 8日 「盛岡竿と盛岡式流し毛鉤～岩手の川と釣り(仮)」

近藤良子(当館学芸員)

3月22日 「遺跡発掘調査のリアル ～工夫・失敗・こぼれ話～」

高木晃(当館学芸課長)

ミュージアムコンサート(音楽公演)

アンサンブルこすかた クリスマスコンサート

令和7年12月13日(土) 13:30～15:00(開場13:00)

講堂、当日受付(定員140名先着順、座席指定なし)、鑑賞無料

アンサンブルこすかたは、上田公民館の軽音楽講座の修了生の有志が中心となり盛岡市を拠点に活動中の団体です。ジャズ、ポップス、歌謡曲、クラシックなど幅広いジャンルの音楽をお楽しみください。

冬休みのイベント

◆触ってみよう、ワンポイント解説

12月23日(火)～1月16日(金)の平日 随時受付

当館解説員が、手で触れられる資料を紹介します。

参加希望の方は、解説員にお声がけください。

◆冬のワクワク!ワークショップ 化石のレプリカづくり

令和8年1月10日(土) 要事前申込

実物の化石から型をとった石こうに色をぬって、レプリカをつくります。

①10:00～10:40 ②11:10～11:50

(受付開始9:50) (受付開始11:00)

③13:20～14:00 ④14:30～15:10

(受付開始13:10) (受付開始14:20)

対象：3歳以上の幼児～小学生(幼児は保護者のつきそいが必要です)

各回定員10名 材料費：100円

予約は、12月14日(日)～12月22日(月)の期間に、専用電子メールアドレスで先着順に受け付けます。詳細や予約状況は当館HPをご覧ください。

◆ワードクイズ

令和7年12月23日(火)～令和8年1月9日(金) 随時受付

展示に関するワークシートを配布します。

館内を探検しながら、ワークシートに挑戦しましょう。

週末の催し

◆ミュージアムシアター

毎月第1土曜日 13:30～ 講堂 当日受付 視聴無料

○12月6日 ムーミン谷とウインターワンダーランド

(パペットアニメ/86分/子ども向け)

※1月はお休みです。

○2月7日 こつなぎ ー山を巡る百年物語

(実写ドキュメンタリー/120分/一般向け)

○3月7日 愛妻物語(新藤兼人監督の名作選その2)

(実写93分/一般向け)

◆チャレンジ!はくぶつかん

毎月第2・第3土曜、日曜 小学生向け 随時受付

チャレンジ! マークをさがして はくぶつかんをたんけん!

12月13日・14日・20日・21日 テーマ:つるつる

1月10日・11日・12日・17日・18日 テーマ:馬(うま)

2月14日・15日・21日・22日・23日 テーマ:石(いし)

3月14日・15日・20日・21日・22日 テーマ:とぶ

◆たいけん教室～みんなのためそう～(事前申込制)

毎週日曜日 13:00～14:30

幼児(3歳以上で保護者同伴)・小学生10名程度

さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみましょう。

※全プログラム有料です(材料費代/プログラムごと異なります)。

※予約は専用メール(一度に3名まで)で受け付け、応募多数の場合には抽選を行います。詳細は博物館ホームページをご確認ください。

12月	7日	松ぼっくりのXmasツリー	1月	4日	木のかまの絵つけ
	14日	かんたん門松		18日	たこづくり
	21日	まゆで干支づくり(午)★		25日	3Dメガネで万華鏡
2月	28日	まゆで干支づくり(午)★	3月	8日	お絵かきはんこ
	1日	スライムであそぼう		15日	化石のレプリカ
	8日	アンモナイトの消しゴムづくり		22日	天然石のフォトフレーム★
	15日	おひなさまづくり			
	22日	猫絵馬づくり			

★印は午前(10:00～11:30)と午後(13:00～14:30)の2回あります。

利用のご案内

■開館時間 9:30～16:30(入館は16:00まで)

■休館日 月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)

※12月29日(月)～1月3日(土)は休館します。

■入館料 350(160)円・大学生160(80)円・高校生以下無料

()内は20名以上の団体割引料金

※岩手子育てバスポート所有者で、バスポートに記載のお子様と一緒に来館された場合は、入館料免除となります。

※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。

※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより 第187号 令和7年12月1日発行	編集	岩手県立博物館 〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Tel. (019)661-2831 / Fax. (019)665-1214
	発行	公益財団法人岩手県文化振興事業団 〒020-0023 盛岡市内丸13-1 Tel. (019)654-2235 / Fax. (019)625-3595